

平成26年度

施策評価マネジメントシート(平成25年度の実績評価)

記入年月日
平成 26 年 6 月 27 日

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	井坂 徹
303	施策名	青少年の健全育成	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	市民(青少年とその保護者、地域住民)	①桜川市人口	人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,469	42,920	42,337
				実績値	46,575	45,673	45,105	44,449	43,826			
		②青少年人口	人	見込値			8,000	7,800	7,600	7,400	7,200	7,000
				実績値	8,880	8,636	8,153	7,871	7,447			
				見込値								
				実績値								
	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	心豊かにたくましく育つ	①家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話をしている割合	%	目標値			45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0
				実績値	—	47.6	49.0	46.0	51.3			
		②地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数	人	目標値			600	600	600	600	600	600
				実績値	780	601	507	680	695			
				目標値								
				実績値								
		目標値										
		実績値										
成果指標設定の考え方	○健全に生活でき、親子のコミュニケーションがとれていれば心豊かにたくましく育っていると考え、アンケート調査の(中学生までの子供を持つ保護者)「家庭において、お子さんと、どの程度の会話をしていますか。」において「悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話をしている割合」で把握する。 ○心豊かにたくましく育ってもらうためには、地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数(自分の子ども以外を指導育成しているかどうか)、青少年が参加した活動の参加人数の割合で把握する。保護者世代に対する意識をもってもらう取組み。											
成果指標の把握方法と算定式等	○桜川市の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○市民の未成年者(20歳未満の市民)は、各年4月1日の住民基本台帳による ○地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、社会環境浄化活動等の参加人数の割合(保護者世代に対する意識をもってもらう取組み。)											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと) ○「地域の子どもは地域で育てる」という意識の醸成を図るため、市民は地域において青少年の育成の場をつくり、地域全体で青少年の健全育成を図る。	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) ○地域の関連団体の育成やボランティア活動等に対する継続的な意識啓発活動を進め、地域が一体となり青少年が健全にのびのびと生活できる環境を創造する。
	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか？ ○少子高齢化にともない、地区(小学校)単位で行っていた事業が、事務事業の平準化により、市一本化で実施する傾向にある。市単位で事業を実施することによって、参加者(子ども達)が制約され、底辺の活動が停滞する可能性が高い。「青少年の主張大会」などは市で実施することによって、より効果が上がると思われるが、子ども達の「生きる力」を育むための体験学習活動は地区(小学校)単位で実施したほうがよい。 ○地域の連帯意識が薄れ、地域教育力の低下が叫ばれている中で、子ども達の体験学習事業等に地域の三世代が参加することによって、地域の連帯感の高揚にもなると思われる。 ○地区により、行政が主体的に実施するものと、市民会議や学校等が主体的に取り組んでいるなど差がある。 ○取り組む事業は地域の特性に合わせて行うことが理想であり、取組みを継続していくことが重要である。	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？ ○立志の集い。(真壁地区、市民会議で実施していた。)、岩瀬・大和地区(行政の補助金で実施していた。)運営方針や体制を統一してほしいという要望があった。 ○子どもに不便さを体験させたいという意見がある。(野外体験などを実施している。) ○三世代の集いを復活させてほしいという意見もある。(コミュニティスクール事業と連携するとよい結果が出た。) ○高齢者と子どもたちのふれあう場を企画実施してほしい。との意見がある。 ○小中学生と高校生の交流を図るべきとの意見がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 青少年活動の充実	青少年	生きる力を身につける	①体験教室の開催回数	実績値 回	60	56	45.0	31.0			
			②体験教室への参加延べ人数	実績値 人	2,130	2,766	2,771	2,752			
② 家庭教育の充実	青少年の保護者	家庭での教育力を高める	家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合	実績値 %	46.0	33.0	46.0	51.3			
③ 地域教育力の充実	地域住民	地域での教育力を高める	地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数	実績値 人	601	507	680	695			

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

施策のコスト	項目	単位	24年度実績	25年度実績	26年度予算
	①本施策を構成する事務事業の数	件	19	17	16
	②施策事業費(一般財源以外)	千円	142	116	134
	③施策事業費(一般財源)	千円	4,150	3,685	4,316
	④施策事業費の計(②+③)	千円	4,292	3,801	4,450
	⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	12,038	14,512	13,569
	⑥ 計 (④+⑤)	千円	16,330	18,313	18,019

5. 施策に関連する主要事業等

関連する事務事業	区分	事務事業名	摘 要
	事務事業	青少年育成桜川市民会議運営事業	H25貢献度上位、H26優先度上位
	事務事業	コミュニティスクール事業	H26優先度上位
	事務事業	市子ども会育成連合会運営助成事業	H26優先度上位

施策番号	303	施策名	青少年の健全育成	主管課	生涯学習課
------	-----	-----	----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)～①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	・家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話をしている割合は、23年度49.0%、24年度46.0%と下降したが、25年度は51.3%に上昇した。 ・青少年相談員が青少年が多く集まる市内で行われる祭事等で積極的な巡回指導を実施した。また、「青少年の健全育成に協力する店」等の訪問・登録促進活動を実施している。巡回指導を実施した回数は、21年度から25年度までは、毎年度8回(真壁祇園祭3日・岩瀬祇園祭2日・岩瀬盆踊1日・大和地区夏休み2日)実施。積極的な活動で、青少年の指導の事例、また、問題事例の発生はない。 ・地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、青少年育成桜川市民会議を中心に実施してる「青少年のための社会環境浄化活動」の参加人数である。22年度は601人、23年度は507人と、減少していたが、24年度は680人、25年度は695人とわずかながら増加している。開催時期により、児童・生徒の参加者が大きく変動することがあるが、一般市民の参加者が減少していることから、青少年の健全育成のための環境浄化に対する市民の関心の低さが伺われる。何のために、誰のために活動しているのか、ただ単に集落内のゴミの収集と捉え、「先日、集落で実施したからいいや。」という意見があった。今後は事業の目的意識を持つとともに、その広報に努めなければならないと考える。しかし、市民の皆様のご協力により、捨て看板やビラは激減している。		

1)～②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	①家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話をしている割合は、25年度の目標値47.0%に対し51.3%と4.3%上昇した。 ②地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、25年度目標値600人に対し695人と95人上回った。		

2)他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	・桜川市の青少年の健全育成事業は県内でも先進的であり、多くの事業に取り組んでいる地区である。県西地域の市町村では街頭でのあいさつ運動や役員の視察研修会等を実施している程度であり、比較対照とする指標はない。しかし、筑西市では青少年の主張大会を市内中学校で持ち回り開催するなど、取り入れるべき運営方法等はある。 ・桜川市は青少年健全に対する取組を早期に着手してきたことから、後発団体よりもノウハウも蓄積されている。 ・あいさつ声かけ運動にあっては、青少年育成市民会議・青少年相談員・行政区長等が地域(学校)に入って取り組んでいる。他団体では事例は少ない。		

3)住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか）、その他の特徴は？

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	・青少年の健全育成事業に市内の全120行政区が取り組んでいる(地区会費がある。環境浄化活動等に全地区で参加している事等)ことから、住民が期待する青少年の健全育成に対する期待の大きさが伺われる。しかし、会費だけを払えば、後は、役員や行政・学校がやってくれるからいいやという考えが横行しているようにも思われる。 ・住民が期待する水準が不明確なところもあり、相談員が巡回指導した回数や育成事業への参加人数等で判断しがたいものがある。 ・総合計画後期計画の策定時におけるアンケート調査では、この施策における住民の優先度は低く、満足度は平均よりやや高く、現状維持項目である。結果、青少年健全育成活動を地道ではあるが継続的にやっていくことが必要である。		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	26年度においては、青少年に対し、「生きる力を身につける」を目標に重点的に取り組んだ。 ・事務事業貢献度評価結果から、具体的に施策の成果向上に貢献した主な事業は、「青少年育成桜川市民会議運営事業」「コミュニティスクール事業」「放課後子どもプラン推進事業(放課後子ども教室)」であった。 ・「青少年育成桜川市民会議運営事業」は、「あいさつ声かけ運動」(333名参加)の主催、「青少年のための社会浄化活動」(695名参加)の主催、「青少年の主張大会」(184名参加)の主催及び「指導者研修会」を実施した。また、各支部においても、青少年を対象にきめ細やかな事業を行った。 ・「コミュニティスクール事業」は、真壁地区の小学校区ごとに地域の特性を活かした取り組みを実施した。真壁小学校区では、親子で溪流釣りを楽しむ「溪流でフィッシング」他、紫尾小学校区では、校庭を流れる川を使用し「鮎のつかみ取り」他、谷貝小学校区では、地域の方々の協力により、校庭を使用し「サマーキャンプ」他、樺穂小学校区では、地域の方々に日頃の協力に対してのお礼として、学習の成果を発表した「ありがどう集会」他の事業を行い、延べ2, 208名の参加があった。 ・「放課後子どもプラン推進事業(放課後子ども教室)」は、「おもしろ理科教室」、「お料理教室」、「作って楽しもう」、「自然文化財探検教室」の4つの教室を、それぞれ年4回ずつ開催し、延べ166名の参加があった。 その他の事務事業では、「青少年相談員運営事業」「市子ども会育成連合会運営助成事業」等がある。 ・「青少年相談員運営事業」は、「青少年の健全育成に協力する店」の各店舗を訪問し登録活動を実施。また、社会浄化活動への参加、街頭指導活動、各種研修会への参加をすること、指導者としての質の向上を高めた。 ・「市子ども会育成連合会運営助成事業」は、児童が慣れ親しんでいる学校を離れて、地域ごとに組織された子ども会において、学校を超えて一つのスポーツに親しむ「子ども会球技大会」や、貴重な体験、経験をさせることを目的に「桜っこ探検隊」を実施した。
-------------	---

8. 今後の課題と方針

区 分		今後の課題	今後の方針
施策全体		・青少年が抱える問題は年々深刻化しており、学校と家庭と地域の連携強化を図り、地域ぐるみで子どもたちを取り巻く様々な環境を改善するとともに手本となる親や大人の自覚など意識を高めていく必要がある。	・学校、家庭、地域の連携強化を図り、地域ぐるみで子どもたちを取り巻く様々な環境を改善するとともに、手本となる保護者や地域住民の自覚など意識啓発に努めます。 ・子どもがたくましく伸び伸びと生活できるよう、地域の子どものは地域で育てる環境を形成し、地域住民の連帯意識を高め、世代間交流等による地域社会の活性化を図ります。
基本事業	①青少年活動の充実	多くの参加者を募るためのPR活動が必要となってくる。 関係機関との連携を密にして、必要に応じて青少年及び家庭を指導する。 各種事業を通じて、青少年の健全育成の啓発活動を推進する。	多彩な地域活動やボランティア活動など、「見て・聞いて・体験して感動できる」活動を充実させ、これら豊かな体験をとおし、子ども達の「生きる力」を育みます。
	②家庭教育の充実	学校と家庭と地域の連携強化を図る事が必要と思われる。 親子で参加できる「あいさつ運動」「社会環境浄化運動」等に取り組んでいるが、運動の趣旨の浸透が図られず、参加者数が伸び悩んでいる。とくに、問題があると思われる家庭や小中学生などの参加が少ない。無関心である。	家庭は、家族の暖かい人間関係を通じて子ども達が基本的な規範意識や生活習慣を学ぶ人間形成の場として極めて重要であることから、学校等と連携しPTA活動や家庭教育学級を通じて、「子どもの見本となる保護者意識」を高める相談・支援体制を充実し、ふれあいのある家庭づくりを推進します。
	③地域教育力の充実	青少年の健全育成はすべての市民の願いであり、使命でもある。青少年の人格形成には、日常生活における親や大人の子供に対する関わりが大きく影響することから、親や大人がなお一層の自覚を促進し、青少年のよい手本となるよう、関係団体と連携をはかっていくことが重要である。	地域コミュニティの地縁的結びつきをベースとして、社会環境浄化活動や地域防犯(見守り活動)及び地域の伝統行事などを通して、異世代間の交流事業を図り、「地域の子どものは地域で育てる」という意識を啓発します。